

# 「食品の安全性」に関する消費者意識調査 (2010～2014年)

食品添加物および食中毒菌に対する消費者の不安感の強さと、「食品の安全性」に関連する意識・行動の関係を明らかにするため、2010年、2012年および2014年の4月につくば市で行われた研究所一般公開の来客者を対象として、自記式多肢選択方式のアンケート調査を行った。

18歳以上の男女（高校生を除く）をアンケート対象とした

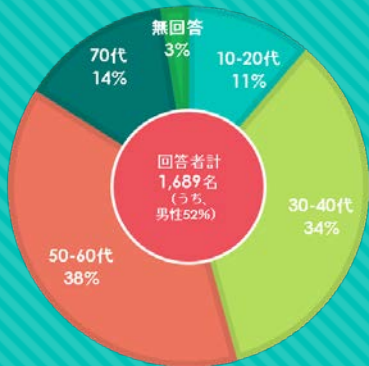


図1. 回答者の年齢構成

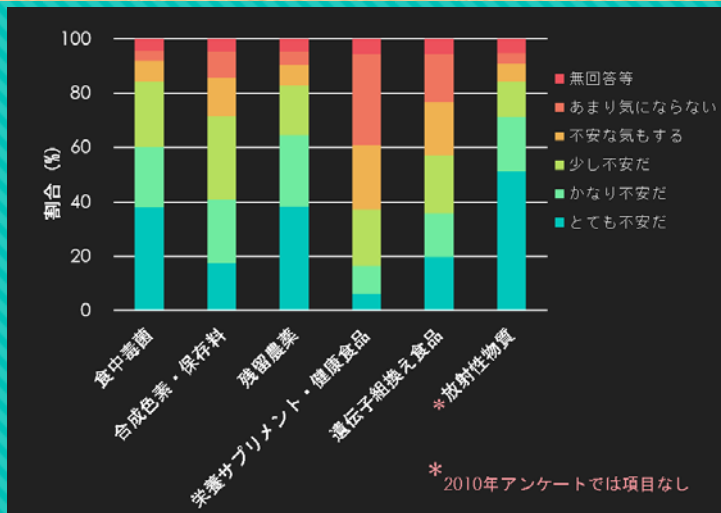


図2. 各種ハザードに対する不安感の強さ

表1. 不安感の強さの間の順位相関係数

	合成色素 保存料	残留農薬	サプリメント 健康食品	遺伝子 組換え食品	放射性 物質
食中毒菌	0.33	0.28	0.03	0.14	0.34
合成色素 保存料		0.47	0.37	0.47	0.39
残留農薬			0.26	0.42	0.51
サプリメント 健康食品				0.47	0.20
遺伝子組換え食品					0.44

残留農薬や遺伝子組換え食品に不安を持つ人は、サプリメント等以外のもに對しても不安を持つ

表2. 食に対する意識と不安感の強さの関係

サブリンメント等を とても/かなり不安に思う人は 2割以下	「かなり/ どちらかといえ ばあてはまる」 回答者割合(%)	質問項目の同意の程度に対する順位相関係数					
		食中毒菌	合成色素 保存料	残留農薬	サプリメント 健康食品	遺伝子組換 食品	放射性 物質
● 普段から健康を意識した食事をするようにしている	66	0.11	0.29	0.23	0.15	0.18	0.21
● 食品を購入する際には、できるだけ新しそうな商品を選ぶ。	70	0.06	0.15	0.15	0.04	0.12	0.20
● 食品を購入する際に、保存料や着色料の表示を確認する	60	0.15	0.40	0.27	0.25	0.30	0.25
● 通常の商品よりも「オーガニック」「有機栽培」や「無添加」の商品の方が安全だと思う	61	0.14	0.30	0.31	0.13	0.23	0.38
● 事件後すぐに発表された政府や知事の「安全宣言」は、あまり信用できないと感じる	61	0.06	0.13	0.12	0.12	0.13	0.16
● 農漁業生産者や食品メーカーの食の安全に対する態度に、不安や不信を感じる	53	0.12	0.30	0.21	0.18	0.27	0.20
● 生産者やメーカー（団体）が行う自主規制や自主管理は、あまり信頼できないような感じがする	39	0.08	0.23	0.20	0.16	0.22	0.22
● 日本の政策は農漁業生産者や食品メーカーの利益が優先で、消費者の権利がながしにされているように感じる	41	0.09	0.25	0.19	0.18	0.23	0.25
● 産地偽装や期限表示の偽装を防ぐために、もっと税金を使って積極的に取り締まりを行うべきだと思う	57	0.14	0.21	0.21	0.11	0.19	0.26
● たとえ自分の好きなものが自由に食べられなくなるとしても、行政は食の安全を守るために、刑罰を伴う厳しい規制を積極的に導入すべきだ。	51	0.16	0.27	0.24	0.18	0.24	0.25
● 自己責任で幅広い商品を自由に選ぶことができる社会が好ましいので、行政による規制は最小限、必要なものにとめるべきだ。	35	0.01	0.07	0.06	0.09	0.06	0.05

※相関係数が高いほど、相関性が高い

合成色素・保存料、残留農薬および放射性物質に対して不安感が強い人は、「オーガニック」「無添加」の商品を安全だと思う傾向がある

本結果から、不安感や不信感を背景とする天然・無添加志向や「サプリメント・健康食品＝常に無害」という発想の存在を示唆する調査結果であり、適切なリスクコミュニケーション活動が必要であると考えられた。



農研機構  
食品研究部門

代表研究者：稲津康弘 川崎晋 細谷幸恵  
所 属：食品安全研究領域  
食品衛生ユニット  
問い合わせ先：029-838-8067